

スペインにも政治リスクが浮上

発表日：2018年5月25日(金)

～野党がラホイ首相の不信任動議提出へ～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ スペイン史上最大規模の汚職問題で与党関係者に有罪判決。これを受け、野党は近くラホイ首相への不信任動議を提出する方針。不信任動議が可決するかは、野党勢が首相候補を一本化できるか次第。ラホイ首相が今回も不信任動議を乗り切って続投するか、社会労働党を中心とした左派寄りの政権が誕生するか、再選挙に発展して新興リベラル政党・シウダダノス（市民）が政権を奪取するか、今後の政局展開は流動的。イタリアの政治リスクが高まる最中のスペインの政局不透明感に注意が必要。

スペインの高等裁判所は24日、ラホイ首相の元側近や元閣僚を含む与党・国民党（PP）の関係者29名に対し、同国史上最大規模とされる汚職問題で有罪判決を言い渡した。これを受け、最大野党の社会労働党（PSOE）は25日に緊急会合を開く予定で、ラホイ首相に対する不信任動議提出の準備を進めていると複数の現地メディアが伝えている。国民党政権は相次ぐ政治スキャンダルとカタルーニャの独立問題への対応を巡って厳しい批判に晒されている。不信任動議の可決には下院（定数350）の過半数に相当する176票が必要となる。昨年6月にも新興左派政党・ポデモス連合（Unidos Podemos）が汚職問題を理由に首相の不信任動議を提出したが、この時は社会労働党が棄権に回り、賛成82、反対170、棄権98で否決された。報道によれば、社会労働党の幹部は不信任動議の提出を支持する見通し。ポデモス連合や与党に批判的な地域政党がこれに同調すれば、今回は賛成多数で不信任が可決する可能性がある（図表1）。

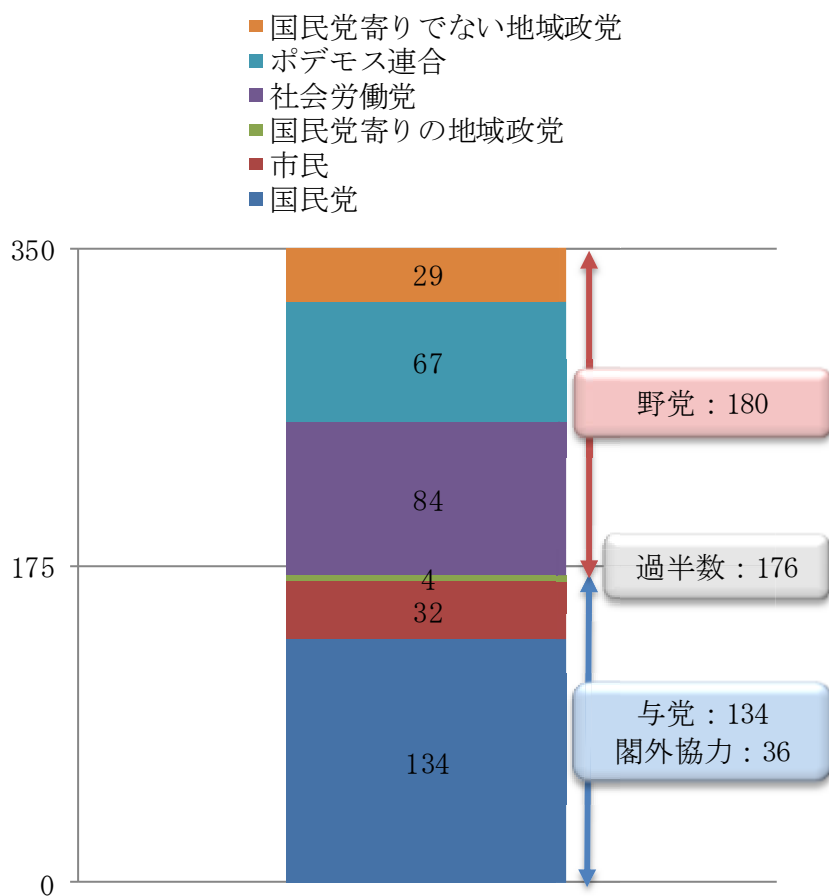
ただ、同国の不信任動議の提出にはラホイ首相に代わる首相候補を立てなければならない決まりがある（憲法113条）。ポデモス連合のイグレスias党首は今のところ社会労働党の不信任動議に賛成する意向を伝えているが、左派の支持基盤を競い合う社会労働党とポデモス連合が首相候補を一本化できるかは不透明だ。社会労働党の首相候補は党内の権力闘争を勝ち抜き、昨年6月に党首に返り咲いたサンチェス氏となる可能性が高い。不信任動議が議会で可決された場合、動議で掲げた首相候補が議会の信任を得たとみなされ、新たな首相に任命される（憲法114条）。つまり、社会労働党にポデモス連合などが協力する左派寄りの政権が誕生する。国民党政権に閣外協力してきた新興リベラル政党・シウダダノス（市民）の動きも今後の情勢を左右する。カタルーニャ独立派に対する厳しい態度と汚職疑惑が相次ぐ国民党への幻滅も重なり、最近の世論調査でシウダダノスは他党を大きくリードしている（図表2）。シウダダノスは今回の国民党の汚職問題を厳しく批判しているが、次期総選挙で政権奪取の機会を窺っていることもあり、社会労働党主導の不信任動議に同調する可能性は低い。

民政移管後に行われた過去3回（1980年、1987年、2017年）の不信任動議は何れも否決されている。仮に今回の不信任動議が可決された場合も、その後の政治展開は読みづらい。憲法規定上は前倒し選挙を経ずに政権が誕生する仕組みとなっているが、社会労働党を中心とした現野党勢の議会基盤は脆弱なため、再選挙によって政権基盤を強化しようとする考えもあるかもしれない。議会の解散は首相の提案で行われ、不信任

動議の結果が判明するまでの間と、前回総選挙から1年が経過するまでは、解散令を提出できない（憲法115条）。現時点の世論調査から判断する限り、社会労働党とポデモス連合に次期総選挙で勝ち目はなく、解散時に政権の座に最も近いのは、38歳の若き党首リベラ氏が率いるシウダダノスだ。今回も不信任動議を乗り切ってラホイ政権が続投するのか、不信任決議が通り、社会労働党を中心とした左派寄りの政権が誕生するのか、2020年の議会任期を待たずに前倒し選挙が行われ、新興政党・シウダダノスが政権を奪取するのか、今後のスペイン政局の展開は流動的だ。イタリアの政治不安が他の欧州諸国に波及するリスクは今のところ限定的だが、このタイミングでのスペインでの政局不透明感の浮上とあって、市場の動揺を誘う可能性がある点に注意が必要だ。

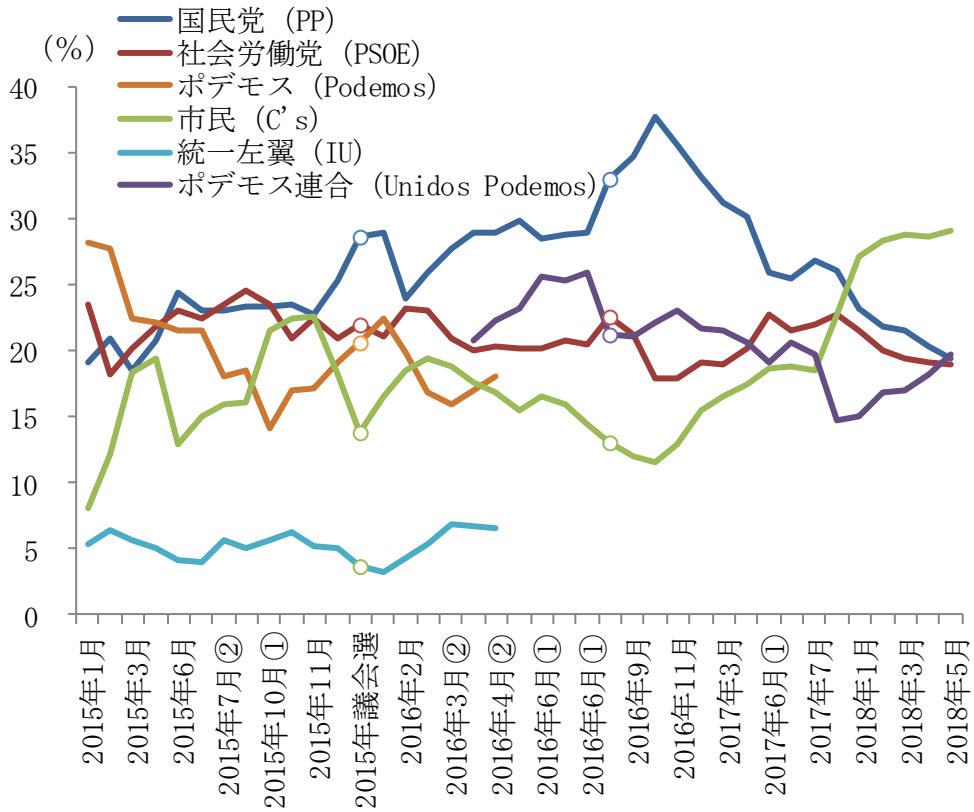
なお、成立が大幅に遅れていた2018年度予算が23日ようやく可決した。議会の過半数を確保していないラホイ政権は、バスク州への手厚い予算配分と引き換えに、同州の地域政党・バスク人民党（PNV）から予算審議での協力を取り付けてきた。だが、昨年10月のカタルーニャ州の自治権剥奪に反発し、同党は政権への協力を撤回。14日にカタルーニャで独立派の新州首相が誕生したが、国家反逆罪などに問われている独立派メンバーの登用を目指す方針にラホイ政権が反発し、自治権停止の解除は棚上げされている。

（図表1）スペインの下院議会構成



出所：スペイン下院資料より第一生命経済研究所が作成

(図表2) スペインの主要政党別の支持率推移



注：○印は選挙結果、ポデモス連合はポデモスと統一左翼が合流
 出所：Metroscopia資料より第一生命経済研究所が作成

以上